白鼠●久永草太

我が胸に小さき太鼓の鳴る機序を心電図という頁で習う
心臓の模式図として黒板に教授が描くハートうつくし
格言のように教授はつぶやけり「無論ネコにも犬歯はあるぞ」
つむじ風ほどけたらもう春ですね　はじめて白衣を羽織るひらめき
白鼠おまえの白さを雪というおまえの知らぬもので喩える
僕の手がラットを掴む瞬間にキング・コングを登場させよ
鼠にも僕にとっても初めての皮下注射ってこの辺でいい？
「もどってこーい」まるで子どもを呼ぶような死戦期呼吸のラットの蘇生
皮膚という袋を縫う午後　漏れそうな命はきっと水みたいなもの
生かすためときには殺すために打つ麻酔の針のながながし夜
手を絞り指揮者が音を消すごとくラットの胸の太鼓を止める
子となって命となったかもしれぬ摘出卵巣内のつぶつぶ
生命の等価交換　献血の後にたまごを十個もらいぬ
たけのこのあく抜くがごとぶくぶくと湯船に溶けてしまえ溜め息
わたくしを構成するよ今朝食べたバナナも昨日ぶつけたアザも